

## 経済学部教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学部では、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げる知識・技能を修得させるために、以下の方針に従って教育課程を編成する。

- 1 経済学・経営学全般に通じ、国際・国内・地域の諸分野で自力を持って活動し得る人材を育成するため、問題発見力、調査分析力、論理的思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、社会的責任力の諸能力が修得できるよう教育の充実を図る。
- 2 他者と円滑なコミュニケーションをとるために欠かせない論理的思考力、表現力、言語運用力を高めるため、少人数のクラス編成により、グループワークや双方向の対話を重視した日本語リテラシー科目、外国語科目を配置する。
- 3 数理的知識とデータ処理に関する基礎的技能を身に付けるため、習熟度に応じて学生が選択できる科目構成とした数理系科目を配置する。
- 4 グローバルな視点、思考を涵養するため、学際的に諸学問を学びながら自身の文化や多様な価値観を考察できるよう教養科目を配置するほか、諸言語を母語とする人とコミュニケーションをとれるよう言語系科目を配置する。
- 5 専門教育科目は、学科ごとに専門領域を幅広く体系的に学修できるよう配置するとともに、専門領域以外の領域も学生自らが定めた学修課題に自律的かつ継続的に取り組めるよう柔軟に選択できる領域を確保する。
- 6 実務家講師を招聘し、経済社会、企業経営の現場における実践的な事例を学修し、経済学、経営学の理念や目的を理解させるための科目を専門教育科目に配置する。

## 学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

### ○経済学科

経済学科では、理論・歴史・現状分析・政策等及び経済学の諸分野に関する専門的知識を系統的に修得するとともに、高度職業人として必須な実践的応用力を培い、国内外の経済社会において第一線で活動できる人材を育成するため、以下のとおり方針を定める。

- 1 科学的態度（理論と実証）と経済学マインドを醸成するために必要な科目として、経済学の理論、歴史、制度、政策等の領域について幅広く科目を配置するほか、それらの科目を6群構成に整理して配置し、各群の関連性について明示する。
- 2 経済学の分析手法や経済学的思考法の理解を深めるため、コアとなる科目については、基礎から中級又は応用分析へと体系的に学修できるよう必要な科目を配置する。
- 3 コアとなる科目では、学修効果を高めるため、到達目標、教育内容、評価基準等において科目間の連携を密接に行う。
- 4 批判的思考の反復、少人数によるグループワーク、ディスカッション等により、課題設定、調査分析、解決策提示等、社会や組織において求められる能力に加え、協調性、リーダーシップ、コミュニケーション力等、組織や他者を支える能力を養成するため、2年次から演習科目を配置する。

## ○経営学科

経営学科では、経営学、マーケティング、会計学、情報処理、法律等のビジネスに必要な広範囲の知識を有し、さらに特定の分野を深く研鑽した上で、これらの知識を基盤に、様々な組織において自律的に問題解決を行える人材を育成するため、以下のとおり方針を定める。

- 1 企業活動の全体像や企業の役割、企業への社会的要請を理解するために必要な科目として、経営、マーケティング、会計、財務、法律等の領域について幅広く科目を配置するほか、それらの科目を6群構成に整理して配置し、各群の関連性について明示する。
- 2 企業が直面する諸課題について自律的な問題解決に取り組む能力を修得するため、学生が自ら選択した専門分野について学修を深めることができるよう、各群に重層的に関連科目を配置する。
- 3 倫理観、社会的責任を持ち、多面的考察ができる人材を育成するため、企業や経営にまつわる多様な理論と歴史からそれらを学べる科目を設置する。
- 4 批判的思考の反復、少人数によるグループワーク、ディスカッション等により、課題設定、調査分析、解決策提示等、社会や組織において求められる能力に加え、協調性、リーダーシップ、コミュニケーション力等、組織や他者を支える能力を養成するため、2年次から演習科目を配置する。

## ○国際学科

国際学科では、経済学及び経営学を基礎として、国際経済及び国際経営に関する専門的知識を修得するとともに、語学力に支えられたコミュニケーション力、異文化に対する理解力を培い、国内外のグローバル化する経済・経営の分野で活躍できる人材を育成するため、以下のとおり方針を定める。

- 1 国際経済、国際経営の現状を理解するために必要な科目として、経済学、経営学の基礎科目、その応用科目を体系的に配置するとともに、国際経済、国際経営、国際関係、地域研究等に関する科目を多数配置するほか、それらの科目を6群構成に整理して配置し、各群の関連性について明示する。
- 2 国際社会で活躍するために必要な実践的なコミュニケーションをとることができるよう英語による専門科目を配置する。
- 3 国際事情に関する知識と異文化理解を持つことができるよう、海外での学修や実践的な語学スキルの獲得を積極的に推進するため、海外語学研修、海外フィールドワーク、海外インターンシップ等の海外での学修体験及び検定試験のスコアを単位認定するための科目を配置する。
- 4 批判的思考の反復、少人数によるグループワーク、ディスカッション等により、課題設定、調査分析、解決策提示等、社会や組織において求められる能力に加え、協調性、リーダーシップ、コミュニケーション力等、組織や他者を支える能力を養成するため、2年次から演習科目を配置する。

※上記は2022年度以前入学の学生に適用されます。